

黙示録21章1-5節 「すべてを新しくされる方」

1A 人から始められる新創造

1B 被造物のうめき

2B 初めの人の罪

2A 新天新地 1

3A 聖なる都 2-4

1B キリストの花嫁 2

2B 神の幕屋 2-3

3B ぬぐい取られる涙 4

4A いつまでも変わらない方 5

本文

明けましておめでとうございます。私たちが新年に礼拝を献げるに当たり、キリスト者にとっての新年とは何かを考えてみたいと思っています。一昨日、元旦礼拝において、実は終わりの日を語るからこそ、新しい始まりなのだとお話ししました。神は永遠に生きておられる方で、私たちに初めの時に終わりの日、完成された日のことを約束されて、私たちがそれを先んじて受け取って、孫信仰によって歩むお話をしました。私たちが救われたという時に、過去形になっていることに注目してください。「これから救われるように努力する」のではなく、「救われた」のです。「エペ 2:8a この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。」将来の救いの完成をもすべてひっくり返して、神は救いを私たちにくださいました。今朝も、終わりの日を見て、新たにされるすばらしい約束に目を留めたいと願っています。

黙示録 21 章 1-5 節です。「¹ また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。² 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。³ 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。⁴ 神は彼らの目から 涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」⁵ すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

1A 人から始められる新創造

一昨日は、テトス 2 章 13 節から、イエス様が私たちキリスト者のために、教会のために戻って来てくださることを学びました。「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主

であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。」イエス様は、教会のために戻って来られるだけでなく、今、この世界に戻って来てくださることを約束されています。黙示録を読むと、19 章にイエス様が天から地上に戻って来られます。その時に、すでに天に移されている教会が共に来ることを教えています。そして 20 章には、キリストが教会と共に千年間、地上を支配される時代が書かれています。それが地上における神の国、千年王国です。そして、最後の審判があって、天地そのものが崩れ落ちます。新たな天と新たな地を神は再創造し、その中に新たな神の都を天から降りて来させるという幻です。全く新しい秩序、全く新しい世界を神がくださいます。これをもって、神は、「見よ、わたしはすべてを新しくする。」と言われました。

つまり、救いは、個人的なもの、教会のものだけでなく、この全世界にも直結しているのです。そもそも、神が天地を造られた時のことを思い出してください。神は六日で天地を造られ、七日目に休まりましたが、万物を造られた最後に、ご自分のかたちに、ご自分に似せて人を造られたのです。そして、人に、万物を支配するように任されました。ところが人が罪を犯したので、土地が呪われたものとなってしまいました。ですから、神が救われる時、それはこの世界、万物を回復させるのであり、まず、ご自分のかたちに造られた人が救われることを願われ、人がお救いになって、それから世界を救われるのです。

そこで、有名な聖句、コリント第二 5 章 17 節を思い出してください。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」このみことばは、私が信仰をもって間もなくして、新しい信者の学びをした時に教えてもらい、覚えるように言われた聖句です。ここに、新しく造られたというすばらしい知らせがあります。けれども、パウロはそれに終わりません。「古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と言ったのです。これと、ヨハネが黙示録 21 章 1-5 節で語っていることが合致していますね。すべてを新しくされることです。つまり、神が人を救われる時に、それをあくまでも、万物を全く新しくするその初めとして救われているのだということです。

1B 被造物のうめき

今日ほど、終わりの日のことを思わされることはありませんでした。それは、新型コロナが流行して、人々の移動が、特に国際間の移動が著しく制限されました。そして、国々の権力者が感染予防をよいことに、国民の行動にいかようにでも制限をかけるようになりました。終わりの日は、反キリストが人々の額と手のひらに刻印を押させて、刻印がないものは売り買いができないようにさせる、という姿になります(黙示 13 章)。反キリストはまだ現れていませんが、それでも、どのような世界がやってくるのかを垣間みるような出来事です。

しかし、新型コロナ自体はウイルスです。人工的に造られたという話もありますが、基本、他のウイルスと同じように、自然の中にあるものです。神は初めに天地を造られた時に、「創 1:31 見よ、

それは非常に良かった。」と神はみなしておられました。ところが、ウイルスは出て来るは、天災はあるは、で、非常によくありません。初めの神の造られた時とは離れてしまっているのです。そこで、自然は、うめいているのです。そして、自然は、人が贖われ、かつての罪を犯す前のアダムの時と同じように、神の子として現れるのを待っています。長くなりますが、ローマ 8 章 18-23 節を読みます。「ロマ 8:18-23 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは私は考えます。19 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだ贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。」

ここで御霊の初穂と、私たちのことをパウロは描いています。神は終わりの日に収穫をされます。万物の回復を収穫と喩えています。それは御霊がしてくださるのですが、イスラエル人は、神から収穫の初穂を献げるように命じられていました。初穂は初めに出て来た穂というだけでなく、最も大事な第一の穂ともみなすことができます。万物を任されていた人を、神は御霊によって贖ってくださった。救ってくださったのです。ですから、私たちが救われている証しというのは、後にすべてが救われ、贖われることを前もって証ししているのです。私たちのからだ贖われる時、つまり、復活して栄光の体に変えられてから、被造物全体もその栄光の中に入れられます。

2B 初めの人の罪

ですから、私たちはやはり、コロナというものに注目するのではなく、それ以上に罪というものが大きな問題だということを改めて思い出す必要がありますね。人が贖われることによって、万物の回復があります。被造物がうめいている時、その被造物を良くしていこう、悪くなるのを抑えていこうとする働きも貴いものです。治療薬やワクチンが開発されるのも、自然の中にあるメカニズムを使っているわけで、神の賜物であります。けれども本質的には、初めの人罪を犯して、それが全ての人に広がって、また被造物にもうめきを与えたということなのです。

しかし、福音があります。初めの人アダムが罪を犯して、世界に罪と死が入ったように、キリストが義を行われ、その罪のためにご自身をいけにえとして献げられたゆえに、信じる者にすべて、義といのちが入ってきました。キリストが第二のアダムとなり、キリストを第一として、その後キリストを信じる者たち、そして世界が神の支配の中に入っていくのです。(ローマ 5 章参照)

2A 新天新地 1

そこで本文を見ていきましょう。1 節です、「¹ **また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と**

以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。」

ヨハネは、「**新しい天と新しい地を見た**」と言っています。彼の生きていた紀元 90 年頃からはるか 800 年前に、預言者イザヤが、この幻が与えられていました。「65:17 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。」そして、使徒ペテロが第二の手紙で、このことを思いながら次のように書いています。「3:13 しかし私たちは、神の約束にしたがって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」そして、ヨハネも同じように幻を見ました。

ここでイザヤが語っている、「わたしは新しい天と新しい地を創造する。」という言葉ですが、創造するは、ヘブル語で、バラ(בָּרָא)といいます。創世記 1 章 1 節に使われている言葉と同じです。「はじめに神が天と地を創造された。」の創造もバラです。これは、無から有を創り出す働きであり、人はどんなに創造的な働きをしても、既に何かあるものを組み合わせるにしかすぎず、無からの創造はできません。イエス様がカナの婚礼で、水をぶどう酒に変えられましたが、水にある成分に、ぶどう酒にある成分が含まれておらず、無から有の創造と言えます。そうしたことは人間にはできないのです。

したがって、神がなされるのは全く新しい創造です。黙示録 21-22 章に描かれている新しいエルサレムの姿を見ると、都の中央から川が流れている、いのちの木が生えているなど、エデンの園に似ているかもしれませんが、厳密にはエデンの園への回帰ではありません。それ以上のものです。創世記 1 章 1 節の「はじめに神が天と地を創造された。」以上の回復です。神が天地を造られ、エデンの園を造られた時に、そこには既に蛇がいました。つまり、悪魔が天から落ちて、蛇としてエバに現れていました。しかし今や、千年王国の終わりに、鎖につながれていた悪魔は火と硫黄の燃える池に投げ込まれたので、エデンの園以上の新たな創造を神は行われるのです！

そして、「**以前の天と以前の地は過ぎ去り**」とあります。イエス様が地上に戻って来られて、ご自身が王となり、神の国を建てられる時、万物は回復しますが、それはあくまでも天と地が刷新するだけであり、これまでの天地がエデンの園と同じように元に戻ったということであり、けれども、天と地そのものは以前のものと同じです。けれども、この時、新天新地においては、ペテロ第二によると、「3:12b 天は燃え崩れ、天の万象は焼け溶けてしまいます。」とあるのです。全ての物質は焼け溶けて、それで神が全く新しい天と地を造られるのです。この新しい創造をもって、パウロは、「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去った、と言ったのです！私たちは、以前の古い自分がいるではないか！と誤ってしまいます。しかし、神は古い人はキリストの十字架と共にかけられて、既に死んでしまったのだ！と言っているのです。

そして興味深いのは、「**もはや海もない**」と言っているところですね。創世記 1 章 2 節で、「闇が大

水の面のの上にあり」とあります。闇と海とつながっています。海には浄化作用があると言われていますが、深海の海底には、あらゆる汚れた沈殿物があると言われています。それと同じように、そこに罪が投げやられるところ、また死者の行く所として、聖書は描いています。「ミカ 7:19b 私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ込んでください。」罪が投げやられています。イエス様が、レギオンを豚の中に移らせた後で、豚の群れはガリラヤ湖の中になだれ込んだのを思い出してください。悪霊もそこに行く定めなのです。さらに、イエス様は、「ルカ 17:2 その者にとっては、これらの小さい者たちの一人をつまずかせるより、ひき臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれるほうがましです。」とも言われました。罪犯す者もそこに行きます。黙示録 20 章、最後の審判が行われる時に、「20:13 海はその中にいる死者を出した。死とよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。」とあります。こうしたものを含んでいゝ海がなくなったということです。つまり、罪も闇も、悪霊も、死自体も、すべてが過ぎ去ったということです！

3A 聖なる都 2-4

1B キリストの花嫁 2

2^a 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

主が、新しい天と新しい地を造られたところに、「**聖なる都、新しいエルサレム**」が与えられています。これは、「**夫のために飾られた花嫁のように整えられて**」とありますが、これはここの住民が教会の者たち、贖われたイスラエル人たち、つまり神の民だということです。教会は、キリストの花嫁と呼ばれています。「エペ 5:26-27 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」元旦礼拝では、テトス 2 章 12 節から、神の恵みは、「私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活」することを教えている、とあります。ここでも、再び、神の贖いがご自分のかたちに似せた人々と被造物がつながっていることが分かりますね。

そして、「**聖なる都**」と言っているのは、黙示録では 17 章と 18 章で、バビロンという大いなる都と対比しているからです。そこは、世界の王たちと淫行にふけっている女が出てきます。神に対して不敬虔であり、また世界の王たちと結ばれています。分かり易く言うと「世」の姿です。「Iヨハ 2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」それが滅ぼされます。それに対して、神の選ばれた都がエルサレムです。神はそこに、ご自分の名を置く神殿を建てることをみこころとされました。神がおられて、そこに人々が来て礼拝して、神の支配の中で正義と平和が満ちているところです。

そして、「**天から降って来る**」とありますね。地上のエルサレムではありません、天からのエルサレムです。神は地上に、エルサレムの都を建てられましたが、しかし、そこは律法にがんじがらめになってしまった都であり、流血もあり、それゆえ異邦人によって踏み荒らされるという神の裁きも受けました。しかし神は天からエルサレムをくださいます。「ガラ 4:26 **しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。**」とあります。元旦礼拝においても、私たちは天から神の命が与えられた、新たに生まれたのは天からなのだとすることを学びました。私たちが、新たな歩みができるのは、もっぱら天におられるキリストが私たちに与えられているからです。

2B 神の幕屋 2-3

^{2b} 神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。³ 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。

神が願っておられることは、まさにこれです。人々と共に住むこと、そして人々が神の所有の民となることです。神が、私たちにとって自分の神になることです。イエス様が、この世に来られた目的はこれです。「ヨハ 1:14a **ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。**」イエス様は何度となく、ご自身が私たちに留まることについて教えられました。永遠に私たちはどのように過ごすか？というと、神とともに過ごすということです。

3B ぬぐい取られる涙 4

⁴ 神は彼らの目から 涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

神は、古きものを過ぎ去らせませんが、それは罪にとまなう死を始めとする悲しみを過ぎ去らせることであります。罪を取り除き、死を取り除きますから、悲しみ、叫び声、苦しきも過ぎ去らせます。私たちは、今の古い秩序にあるかぎり、ある意味で牢獄にいます。それは、生を受けたのにもかかわらず、死ななければいけないという牢獄です。ヨブが、大きな苦しきを受けた時のことを思い出してください。彼は、神こそ呪いませんでしたが、自分の生まれた日を呪ったのです。「3:11-13 **なぜ私は、胎内で死ななかつたのか。胎を出たとき、息絶えなかつたのか。12 なにゆえ、両膝が私を受けとめたのか。乳房があつて、私がそれを吸つたのか。13 今ごろ私は安らかに横になり、眠つて安らいでいただろうに。**」生まれてきて、そこに苦しきがあり、そして死ななければいけないのであれば、一層のこと生まれてこなければよかつたということです。人は、初め死ぬようには定められていませんでした。永遠に生きるように定められていました。そこで、イエスは死んだのによみがえられ、信じる者も死んでも生きるという希望をくださいました。そして、もはや死がない神の都に招き入れてくださるのです。

4A いつまでも変わらない方 5

⁵すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

神が全てを新しくすると宣言しておられます。そして、これらのことが夢物語のように見えるので、「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」と命じておられます。神は真実を語られ、真実な方なのです。すべてが過ぎ去っても、新しい天地を下さる方ではありますが、なぜなら、神は真実な方で、いつまでも変わらない方だからです。ヘブル書 1 章には、交読文で読んだ詩篇 102 篇を引用して、神が古い着物を脱いで、新しい着物を身に付けるように、天地を新たにすることを話しています。「1:10-12 主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。11 これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。12 あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。』」

天地が過ぎ去ることによって、神は過ぎ去ることはありません！そして、神のみこころに留まっている者たちも、過ぎ去ることはないのです！「Iヨハ 2:17 世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。」世の有様が瞬く間に変わっていく時、それでも神の御心を行う力が私たちには与えられています。そしてみこころを行う者は、この天地が過ぎ去っても生き永らえるのだということです。私たちは、この天のエルサレムを自分の故郷としているのです。

ローマ8章

イザヤ65:17

2ペテロ2:13

Ⅱコリント5:17

ヘブル1:10-12

ガラテヤ4:26

ヘブル12:22-24